

学校番号	学校(園)名
63	川崎市立 西梶ヶ谷 小学校
校長名	鶴見 悦子

学校教育目標	学校経営の目標	今年度の重点目標
すなおで思いやりのある子 最後までやりぬく子 健康でたくましい子 自分で考えくふうする子	【自己肯定感をもち、心豊かにたくましく生きていく子どもの育成】	《授業力向上》 わかる授業・楽しい授業の構築 校内授業研究を通しての教育目標の確立 ギガ端末の利用 《全体で取り組む児童指導体制》 自己肯定感が持てるような活動 児童CO・巡回カウンセラーとの共通理解 保護者と外部専門機関との連携 チームとしての児童指導体制 《児童と教職員、地域とPTAが一体となって取り組む学校運営》 教育活動における環境整備などの協力への感謝 グリーン会議とのつながり 学年主任を中心とした学年経営 総括教諭を中心とした学校経営

評価項目	具体的な取り組み	成果と課題	具体的な改善策
1 学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくり (教育環境整備、研修)	学習指導要領に基づく教育活動を着実に実施するため、各教科で言語活動の充実を図り、授業力の向上を目標に研究を進める。今年度は特に体育科を中心に研究を進める。また、言語能力と同様に学習の基盤となる資質・能力となるように、GIGA端末を学習の中に効果的に活用する。	指導要領の趣旨に即して、言語活動の充実に重点を置きながら、各教科の教材研究を行ってきた。昨年度から始めた体育科の研究は、2年目となった。「自分のめあてをもち、夢中になって運動を楽しむ子～やってみよう！こうしてみよう！それすごい！またやりたい！」という研究テーマで、めざす子どもの姿の実現に向けて授業づくりを行った。また、GIGA端末を活用した学習活動を職員同士が紹介する時間を設けたり、ICT支援員の方から、指導していただいたりするなど、活用の幅を広げることができた。	学習状況調査の結果を受けて、子どもたちの実態・学びの傾向を把握しながら、教材研究に取り組んだ。教科部会を中心に、本校児童の実態を判断し、めざす子どもの姿を具体的に見据えて、さらに、効果的な指導法を求めて研修する。また、GIGA端末に関しては、学年の実態に応じて、効果的に活用できている。子供の機器に対する吸収が早く、順応性が高いので、折に触れて、情報モラルの大切さを伝えていく必要がある。
2 基礎・基本の定着と検証 (教育課程・学習指導)	基礎基本の充実を図り、授業力の向上を目指す。学年内での協力指導や交換授業、外部講師による専門的な指導など、より多様で効果的な指導を行う。教育活動の工夫や、意欲的に学習できるような指導法等の研究に取り組む。	校内研究では、学年が提案した授業を参観し、その授業について協議することを通して授業力の向上をめざしてきた。今年度も積極的に外部講師を招いたり体験学習や校外学習を計画的に取り入れたりするなど、基礎・基本の定着や児童の学習意欲を高めるために、教育活動の工夫を行った。	学校公開や授業参観を通して記入していただいた学校アンケートの評価を分析して、授業を振り返る機会とする。また、校内研究の成果や課題を、今後の授業に活かしていく。そして、新年度教育計画検討会議で提案された改善案に沿って教育課程の編成を見直した。
3 連携・交流の推進 (人権尊重教育)	人権尊重教育を推進するために可能な範囲で異学年の交流を行い、より豊かな人間関係ができるようにしていく。また、幼保小・小中学校との連携の充実を図る。	学校行事や各教科の中で、異学年との交流を図り、一人一人が主体的にふれあえる活動を行った。今年度は、低学年のおもちゃランドや秋祭り、6年生のお別れ会など実施することができた。また、1年生と幼稚園児との交流や、6年生が中学校体験をさせていただくなどの有意義な交流を行うことができた。	学校生活での友達とのかかわりの中で、お互いのよさを認められるように指導を継続していき、子どもが安心して過ごせる学級・学校づくりを目指していく。また、安心して新生活がスタートできるように幼保小・小中との引継ぎをしっかりと行い、新しい環境で安心して学校生活を送れるように、また、円滑に移行できるように今後も心がけていく。
4 児童理解、人権尊重教育の推進 (児童指導、人権尊重教育)	一人ひとりが自他を認め、それぞれのよさを伸ばし合える人間関係づくりのために、学級経営を基礎とした児童理解・人権尊重教育に努める。	様々な視点で子どもを多面的に理解し対応できるよう、学年会や学校全体で情報交換を行った。気になる行動に対しては、ケース会議を行うなど対応してきた。学級経営を基礎とした教育を推進し、学校アンケートや効果測定を実施した。また、職員全体が同じ視点で支援に当たれるように、部会で確認し、共通確認することができた。ただ、子どもたちは、決められた約束を守ることはできるが、よりよい学校を作っていくこととする主体的な意識は高くない。	学級経営を基礎とした児童理解・人権尊重教育に努めるとともに、学校生活のあらゆる場面を活用し、相手の存在意識を育て、自分を見つめられるようにする。また、子どもたち自身がよりよい学校を作っていくこととする意識を育てていくことが不十分なので、職員自身の意識が変わっていくように研修を行ったり、声かけをしつらしていき。
5 多様な教育的ニーズへの適切な対応と支援 (特別支援教育)	児童の言動の様子や変化などの状況に着目し、職員全体で情報を共有する。協力して教育活動を工夫し、一人一人の教育的ニーズに対応できるように努める。	児童の状況の把握のために、進んで情報交換を行い、組織的、継続的な対応を行った。また、問題の解決においては、早期に対応できるように。アンテナをはり、担任はもとより、学年・全職員で情報を共有することで、チームでの対応が必須となっている。今後も、共通理解をするための効果的な方法をや問題を未然に防ぐための方法を引き続き探っていく。	担任の先生方と連携し、学力面で一斉指導の指示が難しい子どもに対して、取り出し支援を充実させることができた。また、学校生活において、困り感をもつ児童の実態に寄り添い、個に応じた声かけや支援を行ってきた。保護者と相談し、センタリ機能につなげることができた。不登校児童の支援では、担任の先生や保護者と情報交換を通じて子どもの居場所を確保し、困り感を共通理解できるようにしてきた。また、担任の先生だけの負担にならないように、チームで対応できるようによりよい連携を目指していきたい。
6 生き方教育につながる活動の推進 (キャリア在り方生き方教育)	学校生活において、年間指導計画を元に、キャリア在り方生き方教育の視点を意識して授業の実践を行った。特に、キャリアノートを活用できるように、各学年で活用状況を学年会で確認し合いながら取り組みを進めた。また、定期的に部会を開き、進行状況の確認や学年間の情報交換を図る。	キャリアパスポートの活用方法を職員全体に広め、キャリアの視点を意識した授業を展開していくことを目標にキャリアノートを活用した学習を行った。成長の足跡になるように、ファイリングする内容をよく吟味することができた。また、個人面談の際に、保護者にキャリアパスポートの意義を理解していただくと共に、コメントをいただくなど、子どもたち自身が自己理解を深められるように取り組むことができた。	キャリアノートの活用方法が、学級によって差ができていく。各学年のキャリア担当のメンバーと情報交換をして、活用の仕方を学年で足並みをそろえられるようにしたい。
7 安全管理充実に向けた組織、指導の強化 (安全管理)	児童自身の安全への意識を高め、自分を守るように指導を重ねる。また、事故防止を図るよう組織全体で安全管理への強化に努める。さらに、学校危機管理マニュアルを見直し、事前や発生時の対応について整理する。また、年間複数回の訓練を行い、地震や火災が起こった時の身の守り方について学習をしている。	登校指導、校内巡回、子どもたちが安全、安心して学校生活をおくれるよう、PTAと協力して取り組んできた。学校危機管理マニュアルについては、防災と防犯の両面から見直し、緊急時に職員が一丸となって対応できるよう補充、訂正等をした。	登校指導では、危険箇所を職員で共通認識し、注意点を子どもたちに伝えることで、安全指導に役立てられるようにしていき。防災・防犯対策については、授業中や休み時間の動き方は定着し、スムーズに避難できている。ふりかえりを大切に、子どもの防災防犯への意識をさらに高めていく。
8 諸課題に対応できる教育力の向上 (研修)	必要とされる研修をもとに、校内研修計画を作成する。また、各研究会の実施する授業研究会や地区研究会、研修等に積極的に参加し、情報を校内へ伝達する。常任委員においては特に授業力向上の推進者として授業を公開するとともに、教職員へ指導助言をする。	校内研修を推進する中で、児童が生き生きと学習に取り組むために指導者が準備すること、児童の実態から次の課題を見出すことなど、全ての学習活動において活用できる内容を研修することができた。研修内容としては、給食指導、アレギー研修、心記録生活、防犯、学習状況調査、特別指導、体育陸上などの研修を実施することができた。	校内で受けたい研修を募集して、研修計画を立てていく。教育ビジョンを有効活用し、日常的に意識できるようにしていく。新任研修に関しては全職員で取り組むようする。教職員間の風通しをよくすることで気軽に相談しあえる環境を作っていく。
9 家庭・地域社会がもつ教育力活用の推進 (教育環境整備、保護者・地域住民等との連携)	教育活動をよりよく工夫できるように、地域人材の活用・学校教育ボランティアの一層の充実を図る。また、地域との連携を進めるために学校施設の開放を行う。	図書室利用の場面では、教育ボランティアの力をかり、読み聞かせや環境整備など豊かな教育活動を行うことができた。また、環境ボランティアでは、水回りの清掃、校舎周りの草花の手入れを行っていたり、創立40周年のお祝いに合わせたお花を植えていただいたり子どもたちの栽培意欲にもつながると感じた。学習においても、総合的な学習でお米作り、音楽での合唱指導など多くの方々に指導いただいた。	図書ボランティア、教育支援ボランティア、地域ボランティアの力をかりて教育活動を進めることができた。今後も地域全体で子どもたちを育てていく環境を大切に、さらに充実させていきたい。また、自分たちを支えて下さっている方々への感謝の気持ちも育てていきたい。
10 グリーン会議・コミュニティスクール (学校教育推進会議)の充実 (保護者・地域住民等との連携)	今年度からグリーン会議をコミュニティスクールとして位置付けた。子どもたちが安全に、安心して学校生活を送れるようにするために、子ども・保護者・地域住民の学校への思いや願いを生かした学校教育計画の作成に努める。会議では学校方針や、子どもたちと話し合う機会をもつ。	グリーン会議・コミュニティスクールを通し、地域の方に学校をよりよくするための取り組みを発信したり、意見交流をしたりした。地域の方々からの意見を子どもたちが参考にし、活動に生かしていくようにした。また、今年度は、創立40周年記念式典で、地域をテーマにした学習に取り組み、地域の方々に披露することができた。	グリーン会議・コミュニティスクールの方々から学校の活動を報告し、学校教育活動に理解をいただくとともに、地域で起こった出来事などをお話していただいた。情報交換を行うことで、学校と地域が手を取り合って子どもたちを見守ることができた。
11 学校・学年・学級の教育計画・取り組みの成果等の情報公開 (情報提供)	学校・保護者・地域で協働して教育に当たるようにするため、学校説明会、懇談会、学校・学年便り、学校ホームページ等を使い、学校・学年やクラス等の取り組みを進んで発信するように努める。	学校だよりや学年だよりを毎月発行し、学校や学年の取り組みを進んで発信した。さらに、ホームページでも学校や学年の取り組みを公開した。学校説明会・報告会としては、年度初めと年度末において、本校の教育活動への理解と協力を仰いだ。	学校便りや学年便りで学校から知らせたいことや学校での子どもたちの様子などを発信してきた。学校ホームページでも子どもたちの様子を公開してきた。今年度も保護者からとった学校評価の結果やその考察を手紙で配布した。今後も、保護者の声を取り入れるとともに、積極的に情報公開を行い、地域とともに学校をの教育活動を進めていきたい。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
今年度は通常の児童活動ができるようになった。今まで続けてきた地域教育会議(グリーン会議)がコミュニティスクールとして正式にスタートし、学校の方針を知り、実現に向けて協力する事が出来てよかった。創立40周年を迎えた記念式典では、子どもたちが学校の誕生日を祝おうとしている発表を聞くことができてよかった。これからも地域に根付いた教育活動を続けていってほしい。ギガ端末を使った発表は小学校でのICT教育を直接見られたような気がする。子どもたちの感染症対策を継続したため欠席者が少なかったことを知り安心しているとのことだった。	学校教育目標として「自己肯定感をもち、心豊かにたくましく生きていく子どもの育成」掲げ、一人一人の児童が自分の良さや可能性を見つめられる1年にしようとして進めてきた。今年度も体育を校内研究とし、「自分のめあてをもち、夢中になって運動を楽しむ子」をテーマに～やってみよう～こうしてみよう～それすごいな～またやりたい～という気持ちを持たせられるように、川崎市体育研修推進校として全市に発信してきた。今年度は40周年を迎えることもあり、児童会活動を「手を取り合って大きな輪 広げよう未来への可能性」をテーマに1年を通して学校のスタートから今に至るまでを振り返り、地域の方々とのかかわりを深め人間関係広めることを目的に行ってきた。40周年記念運動会や式典では、全校で取り組む姿を地域の方に見ていただくことができた。異学年との交流も少しずつできるようになった。この他にも働き方改革を目指し、時数減を行い、地域パトロールの仕事移行など地域やPTAにお願いをした。来年度は新しい学校作りを目指し、不登校対策や特別支援について考えこれからの10年を見通したスタートとしていきたい。